

道 徳

道徳で求める子どもの姿

自らを感じ、多様な価値観に思いめぐらせながら、ありのままの自分を自覚し、よりよい生き方を求めていこうとする子ども

「自らを感じ、多様な価値観に思いめぐらせる」とは

道徳的な問題を「自分事」※として捉え、自分と友だちの価値観の類似や相違を意識しながら、「自分は…」「友だちは…」という問いを行ったり来たりすること

「ありのままの自分を自覚する」とは

多様な価値観にふれることで、自らの内面や生活を振り返り、できていることも、できていないこともある今の自分を肯定的に受け止めること

※「自分事」とは、「他人事」（自分とは無関係な他人に関すること）と対極を表す言葉。「自分自身に直接関係すること」という意味で使用している。



道徳で大切にしたい子どもの姿

求め続ける姿

自らの内面や生活を振り返り、絶えず自分自身に問いかけ続ける姿

共に学ぶ姿

自他が表出した価値観に思いめぐらせ、新たな自分の一面に気付く姿

見つめる姿

自分のよさや不十分さを感じ、ありのままの自分を受け入れる姿



道徳で大切にしていきたいこと

(1) 子どもの思いからつくる大主題構想

- 日記や作文への記述分析，教師と子どものかかわりから見取ったエピソードの累積
- 抽出した道徳的な価値を意図的・計画的な主題の連なりとして整理すること

(2) 話し合う必然性を生み出し、「自分事」として考えさせる資料の選択・改作・開発

- 今の自分と重なる場面設定
- 多様な価値観が引き出される中心場面
- 心が揺さぶられる終末場面

(3) 多様な価値観を引き出し、感情を揺さぶる教師の働きかけ

- 価値観の類似や違いに気付かせる発問
- 聞く側の子どもに対し、自分自身への問いかけ意識を生み出す言葉がけ
- ねらいとする価値を体現できた（できなかった）人物の気持ちを感じさせる発問

